

受講番号 19045 学校名 宿毛高等学校 氏名 高月 琴

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1年生3,4H 生徒数 18 名  
科目名 英語 I 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 LovEng. English course I

クラスの様子・特徴

非常に明るく活発な生徒の多いクラスで、ペア活動や音読活動に積極的に取り組んでくれる。皆とコミュニケーションを図りながら楽しく学びたいと考えている生徒がほとんどである。その反面、集中力が途切れやすく落ち着きがない。

問題の確定

積極的な態度を活かしながら、語彙の増加や内容理解力を深めたい。

予備調査

A 授業の観察

とても元気で、本文や単語を大きな声で音読できる。分からない点は、教員に質問したり友達と教えあったりしながら取り組める。しかしながら、集中力が途切れると私語がかなり目立ってくる。

B 生徒による授業評価

英語を好きな生徒が、4月当初の18名中9名から13名に増えてきている。音読活動に関して多数の生徒が、疲れるが楽しいためになると回答している。声の大きさやワークシートの利用に関しても概ね満足しているようだ。しかし予習は約半数がしていない。

C 学力データ

進路マップ結果(4月)  
・平均63点(学年平均49点)  
・大学進学希望者18人中11人

リサーチ・クエスト

音読回数を増やすことで読む力がつき、最終的に語彙の増加や読解力の向上といった「英語力」につながるのではないだろうか。

仮説・実践・検証

仮説1

様々な方法で何度も読むことで、飽きずに反復練習ができるだろう。また、繰り返すことで読めるようになれば自信がつき、大きな声で音読できるようになるだろう。

実践1

内容を理解した後、スラッシュの入った英文を使ってCDを聞く。読めない単語には各自で印をつける。その後全員で音読しながら、リエゾンやリズム、生徒がチェックした語句などを確認する。フレーズリーディング、ペアリーディング、グルーリーディング、シャドウイング、Read&Look up、競争読み、通訳読みなど、立たせたりペアを変えたりしながら様々な方法で行う。慣れてきたら、スラッシュのない英文で練習する。

検証1

音読活動の好きな生徒が多く、元気いっぱい取り組んでくれた。様々な方法で音読練習することで、予想よりも飽きや不満はなかったようである。特に競争読みやCDのシャドウイングは、楽しそうに取り組んでいた。最初は棒読みだった生徒も、スラッシュリーディングを徹底させると次第に改善され、強弱ある読み方をできるようになった。読むことに関して自信がついてくると個々の声も大きくなり、余裕を持って読めている様子だった。

仮説2

1分間に読める語数を測定し記録すれば、自分自身の進歩を目で確認でき、向上心が育つだろう。また、ペアで音読を評価し合えば、英文を正しい発音で読もうとするだろう。

実践2

1分間に読める語数を測定する。英文の書いてあるワークシートを用意し、時間内で読めたところに線を書き込む。練習をしたあと、ペアで音読を評価し合う。単に速く読むだけでは評価が下がってしまうので、正確に読むよう注意を促す。お互いにコメントも記入し、励みにする。

検証2

練習を重ねるにつれ、全員が1分間に読める分量が増えた。すると徐々に音読に対して意欲的になり、リエゾン部分や強弱などについての質問が増えた。日々の記録により目の上達を確認できたので、励みになったようである。ペアでの評価に関しては「相手の音読を聞くと自分の課題が見えてくる」など前向きな意見がほとんどだった。しかし、性格的なものやペアの相手などによって、正直に評価しづらいという意見があった。

仮説3

音読筆写を行い、時間を測定する。読むだけでなく書くことで、より新出語彙や内容が定着するだろう。

実践3

内容を理解し、音読を十分に練習した後で行う。必ず声に出しながら書くこと、文字を見ながら書かないことを基本とした。写し間違いなどをチェックさせ、ミスなく早く書けた上位5名には、スタンプカードにはんこを押す。表面に英文を印刷し、裏面に書き写させた。

検証3

生徒はみんな夢中になって取り組んでくれた。十分音読練習したので、まとめた英文を覚えて書いていた。「何度も見てしまうのはあまり理解できていない証拠」「読めるけど書けない語句」の発見ができ、書くことで内容や語彙を定着させられるなどの前向きな意見が多く、大半が音読筆写の効果を実感していることが分かった。しかし、英文の分量を増やしたため授業で行うには時間がかかりすぎ、繰り返し行えなかった。

研究の成果

アンケート結果で全員が「音読・音読筆写は英語力につながると思う」と解答し、大半の生徒が飽きずに楽しく活動できていたことが分かった。授業中の音読活動が大幅に増加したことを負担と感じずむしろ興味を持ち、リエゾンやイントネーションなどを考えながら取り組むようになっていた。家で音読練習をしたという生徒もいた。効果を実感し且つ個人的に実践し始めたのは、家庭学習の定着率が低いクラスにとってよい傾向だと思う。AR実践後、定期試験のクラス平均が向上しているため、今後も継続していく。多くの生徒がゲーム感覚で行う活動に集中して取り組めることも、今回再認識できた。

今後の授業改善の課題

「英語力」を検証するに至らなかったことが最大の反省点である。せっかく生徒たちが音読の良さを感じ積極的に取り組んでくれたにもかかわらず、その成果を裏付ける客観的なデータが少なかった。今後は模試や実力テストの数値をまとめ、生徒の成長度を分析したい。また、教員との音読テストや暗唱テストを実施し、より大きな達成感を味わわせたい。そして、自分自身が音読についてもっと学習し、丁寧な指導のできる授業を目指す。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

0880-63-2164

電子メール